

放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

回答率

事業所職員： 10名回答、回答率 100%
保護者様： 19名回答、回答率 70%

職員の意見

○環境・体制整備

事業所がある2階までの移動が階段のみであるため、バリアフリーへの配慮ができていない場所がある。事業所内は、相談室に書類や療育グッズの書類が置いてあることもあり、整理し、より広いスペースを確保する必要がある。また、療育内容や多くのご利用者がいる時は狭く感じることもあるものの、法令に基づいたスペースは確保している。療育内容によって机や椅子を移動する等して広いスペースを確保できるよう努めている。また、学習スペースと余暇を過ごすスペースを仕分けたり、コーナーガード等を設置したりすることで安全の確保に努めている。

トイレが1つしかないため、利用者も職員もトイレ待ちをする場面が多くみられる。また、トイレ内で非常事態があったことを考慮し、手すりや非常ボタンが必要と感じている。

職員の配置数は基準を満たしているものの、療育の内容や送迎時間、送迎本数によって少ないと感じることや職員が欠勤した際の対応が難しいと感じることがある。スマートキッズの他教室や事務局から職員が応援に入り、適切な配置数になるように努めている。

○業務改善

日々のミーティング等において、利用者の様子や療育の進め方の共有を行っている。また、学校休業日や長期休み等、ミーティングの時間が充分に取れない時にはスタッフノートを活用し、情報共有に努めている。送迎対応や職員の勤務時間等の関係もあり、支援終了後に振り返りを行う時間があまり取れていないものの、少人数、短い時間でも行えるよう努めている。

保護者等の意向については、送迎での引き渡し時やサービス提供記録、個別支援計画更新面談等の際にお伺いしている。いただいた保護者等の意向、意見をミーティング等で共有し、日々の業務改善に努めている。

非常勤職員の研修参加の機会が減っているものの、社内研修や外部研修を受講した職員が、事業所内において伝達研修を行い、職員の資質向上に努めている。

○適切な支援の提供

療育活動の内容について日常的に意見交換を行っている。集団療育活動では、主担当の職員が作成した療育活動案を基にミーティング等で意見を出し合い、立案している。

職員の勤務時間等の関係で事前の打ち合わせや事後の打ち合わせが必ずしも行えていないとともに、支援に関しても記録をとることに迫られ、検証・改善に必ずしも繋げることはできていない。しかし、個々の職員で振り返りを行ったり、振り返りの内容をミーティングノートに記載したりして、職員全体でより良い支援を提供できるよう努めている。

職員の意見

○関係機関や保護者との連携

学校との情報共有については、利用者の引き取り時や学校からのメール等で行っているが、下校時間や年間行事等の情報共有は、利用者頼りのケースが多いため、連携を深めていきたい。

事業所入会前や退会後の関係機関との情報共有は不十分であるため、強化していきたい。

課外活動において近隣施設を利用することで、地域との交流を深めたり、スマートキッズ内の他事業所と合同活動を行うことで、交流を深めたりすることができるよう努めている。しかし、放課後児童クラブや児童館等の交流の機会は行えていないので、交流できる機会を設定していきたい。

保護者に対しては、面談や毎月発行しているニュースレター等で情報を発信してはいるものの、保護者に対しての支援は不十分である。今後、保護者向けの研修や情報発信を行う機会を設定していきたい。

○保護者への説明責任等

契約時に重要事項を説明し、同意をいただいた上で契約をしているとともに、重要事項等に変更があった際には、速やかに説明し、同意書をご提出していただいている。

毎月ニュースレターを発行し、療育活動の様子や翌月の集団療育活動予定をお知らせしたり、サービス提供記録等を通して日々の情報を発信するよう努めている。

保護者会または療育参観を設定しているが参加率は低く、保護者同士の連携支援は十分に行えていない。また、保護者の相談に応じることはできているが、必要な助言、支援が不十分である。

○非常時等の対応

月に1回以上、地震・火災・台風・不審者対応等、様々なケースを想定した避難訓練を実施している。虐待防止については定期的にセルフチェックや事業所内研修を実施している。

感染症対応等のマニュアルを策定しているものの、保護者や職員への周知は不十分であるとともに、事業所の住所や電話番号等を覚えられていない職員もいるため、定期的な再周知をしていく必要がある。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

事業所にエレベーターがないこともあり、バリアフリー化への配慮についてはどちらともいえないとのことが多かった。子どもの活動等のスペースについては十分に確保されており、職員の配置数等についても適切であるとのことが多かった。

保護者様のご意見

○適切な支援の提供

個別支援計画については、子どもと保護者のニーズや課題を分析された上で、作成されているとのご回答が多かった。

活動プログラムについては、固定化しないよう工夫されているとのご回答が多かったものの、どちらともいえないとのご回答も数件あった。

放課後児童クラブや児童館との交流や障害のない子どもと活動する機会については、行われていないとのご回答が多かったが、障害のない子どもとの交流は特に希望していないとのご意見もいただいた。

○保護者への説明等

保護者会等の開催や保護者同士の連携の支援については、前期の保護者会を開催できなかったこともあり、どちらともいえないとのご回答が多かった。

苦情対応については、特に苦情がないから分からない、大事な問題があった時、とても適切に対応しているとのご意見をいただいた。

○非常時等の対応

緊急時対応マニュアル等の各種マニュアルの周知・説明や、避難訓練等の必要な訓練の実施については、どちらともいえないとのご回答も数件あった。

○満足度

長い夏休みはもちろん、土曜も外へのお出かけがあると良いとのご意見をいただいたものの、子どもは通所を楽しみにしているか、事業所の支援に満足しているかの質問には、ご回答いただいた全ての方が「はい」とお答えされていた。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

- ・支援終了後の振り返り時間の確保。
- ・関係機関との連携や地域施設との交流。
- ・緊急時や感染症対応について、職員や保護者への周知。

○改善できた点・まだ残る課題

- ・個々の職員による支援終了後の振り返りや、翌日のミーティングにて振り返りの時間を確保してはいるものの、職員全体での振り返りは充分とは言えない。
- ・相談支援事業所の訪問や自治体開催の連絡会に参加したり、課外活動として地域施設を利用したり、交流する場面はあるものの、定期的な交流はできていない。
- ・緊急時の対応等のマニュアルがあることは職員に周知しているが、内容の理解は充分ではない。また、保護者への周知は前期保護者会を行えていなかったため、周知しきれていない。



アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成し、日々の支援に取り組んでいる。
- ・日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を図り、支援に取り組めるよう工夫している。
- ・子どもたちの特性を踏まえた上で、集団療育活動のプログラムをチームで立案し、実施するとともに、活動の振り返りを行い、より良い活動を行えるよう工夫している。
- ・個々の状況に合わせて平日、学校休業日、長期休暇用の課題を用意している。課外活動や集団での運動等の活動を取り入れていることもあり、多くの子ども達が通所することを楽しみにしている。

○改善点

- ・支援終了前後の振り返り時間の確保。
- ・関係機関との連携や地域施設との交流。
- ・保護者会等で保護者向けの研修や情報発信、保護者同士の連携の支援。
- ・緊急時や感染症対応について、職員や保護者への定期的な周知。



中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・支援終了後の振り返りを行うことを習慣化し、支援の質を向上させる。
- ・関係機関との連携強化、地域行事への参加を通して、支援の充実を図る。
- ・保護者に参加していただける保護者会等の定期的な開催、運営を行う。
- ・緊急時や感染症対応等の理解をより一層深め、安全、安心な事業所運営を行う。

○1年間で取り組む具体策

- ・支援前に療育内容の立案や意見交換を行う。支援終了後には、少人数の職員であっても振り返りを行い、振り返った内容を記録するとともに、翌日の業務前ミーティング時に、前日の支援の様子について振り返る時間を設定する。
- ・担当者会議や連絡会等に積極的に参加するとともに、保護者の方の協力を得て、関係機関と都度連絡のとれる関係を築いていく。
- ・事前に保護者の要望をお聞きし、魅力ある保護者会等を開催する。
- ・緊急時や感染症対応等のマニュアルを用いて事業所内研修を行い、緊急時の対応等の理解を深める。また、保護者会等を通して緊急時の対応等について定期的に情報発信する場を設定する。

スマートキッズ